

# ミニバレー

ミニバレーは、昭和47年に北海道大樹町で考案されたニュースポーツで、柔らかく軽い専用ボールを使用することで、その変化の意外性と手軽さが、子どもから高齢者まで、誰でもが楽しめます。

難易度★ 人数:8人～

## ◎ 用具

- ◆ 専用ボール…1個
- ◆ ミニバレー専用ネット又はバドミントンネットを使用

## ◎ 場所等

- ◆ コートは、バドミントンコート（6.1m×9m）を使う。
- ◆ ネットの高さは、1.55m

## ◎ 人数

- ◆ 1チーム…4人

## ゲームの進め方

1. ジャンケンで勝ったチームが、サービスとコートを選ぶ。
2. 審判の合図によってプレー開始。
3. サーブは、サイドラインの延長線上内で、エンドライン後方から打つ。サーブを打つときは支持手から完全に手を離して打たなければいけない。
4. サーブは1本で、サーブ権のある間は、同一プレーヤーが行う。
5. 2セット目のサーブは、相手のチームが行う。3セット目はジャンケンにより決める。
6. 1チームは、最大限3回プレーすることができる。ブロックのワンタッチも1回と数える。
7. ボールは、ウエストより上であれば、どの部分でプレーしてもよい。
8. サーブ権のあるチームが勝ったときのみ得点となる。サーブ権のないチームが勝ったときは、サーブ権が移動する。

## 【得点】

サーブ権のあるチームが勝ったときのみ得点となる。

## 【勝敗の決め方】

1セット11点先取の3セットマッチで、2セット先取したチームが勝ちとする。デュースとなった場合は、2点勝ち越すまで行う。

## 【反則（失点）】

- ☆ 同一チーム内で4回以上ボールをプレーしたとき。（オーバータイム）
- ☆ 一度ボールに触れたプレーヤーが続けてボールに触れたとき。（ドリブル）
- ☆ ブロックしたプレーは1回とみなします、従って他のプレーヤーやネットに触れる前に再び同じ人がプレーしたとき。（ドリブル）
- ☆ ボールをすくい上げたり、運んだり、ボールを停止させてプレーしたとき。（ホールディング）
- ☆ ボールをプレーするとき、ウエストより下でプレーしたとき。（フットボール）
- ☆ プレー中はネットを越えて相手ボールに触れたとき。（オーバーネット）ただし、手や体の一部がネットを越えても、ボールに触れなければオーバーネットではありません。
- ☆ ボールを自分のコート側でプレーしていても手や体の一部がネットを越えていたとき。（オーバーネット）
- ☆ 体の一部などが相手コートに入り、相手のプレーヤーと接触したとき。（ファウルチャージ）
- ☆ 体の一部が相手コートに入り、相手のプレーを妨げたとき。（ファウルチャージ）
- ☆ 体の全部が相手コートに入ったとき。（ファウルチャージ）
- ☆ ネット下の支柱に体が触れたとき。（ファウルチャージ）
- ☆ サーブを打つ瞬間にエンドラインを踏んだり、エンドライン内に両足を踏み入れたとき。（フットフォールト）
- ☆ サーブを打つ瞬間にサイドラインの想像延長線上を踏み越したとき。（フットフォールト）
- ☆ サーブを打つ時、故意にサーバーを隠す行動や手の構えをしてはいけません。
- ☆ サーブが打たれるまで肩から上の位置に手をあげてはいけません。
- ☆ ボールがコート外の床面や物体に触れたとき。（アウトオブバウンズ）
- ☆ ボールがネット上を完全に通過しなかったとき。（アウトオブバウンズ）
- ☆ ボールが2本のポール間を通過しなかったとき。（アウトオブバウンズ）
- ☆ サーブの際にサーブ側、レシーブ側ともに、前衛と後衛のプレーヤーの前後や左右の位置関係が違っていたときの反則。プレーヤーの位置は、前衛と後衛の関係は前足で、左右の関係は右プレーヤーの右足と左側プレーヤーの左足の位置によって判定します。（アウトオブポジション）
- ☆ プレー中は、体のどの部分でもネットに触れたとき。（タッチネット）ただし、打ったボールがネットに触れ、その弾みで相手プレーヤーにネットが触れた場合はタッチネットになりません。
- ☆ 故意にプレーを遅らせる、ボールを蹴る、ネットにぶら下がるなどフェアプレーの精神に反するプレーや行動は罰せられます。（テクニカルファウル）
- ☆ 両チームのプレーヤーが同時に反則を犯したときや両チームのプレーヤーがネット上で同時にボールを押し合い、ボールが停止したとき。（ダブルファウル）
- ☆ サーブのボールがネット上を完全に通過する前に、レシーバー側が触れたとき。（バイオレーション）